

法學指鍼

ヴェルベツキ氏口譯  
忘社負筆受

一

1

和装本

71

968

1

80  
75  
70  
65  
60



米國ヴェルベッキ氏口譯  
忘筌社負筆受

# 法學指針

第一帙

明治十年九月出版櫻井氏藏梓



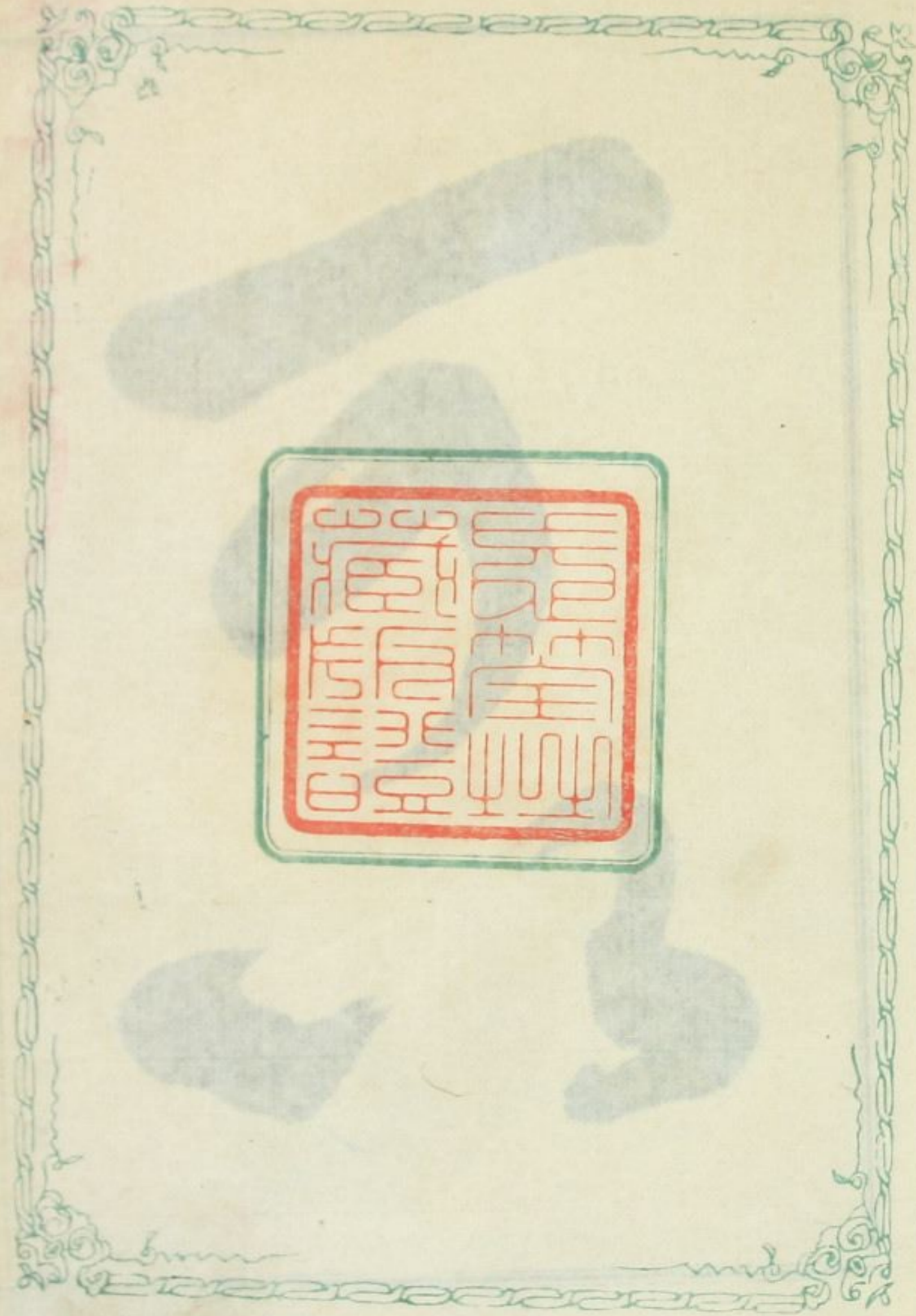


本國ウエルベツキ氏口譯  
忘筌社負筆受

# 法學指鑑

第一帙

明治十年九月出版櫻井氏藏梓





為  
第十九号

去  
司  
法  
卿  
大  
木  
公  
題  
言

可  
子





念心

方未秀任





同會

同會

法學指鍼例言

明治十年五月

法學指鍼

一此書ハストラスブール州ノ法律學校ノ教師  
 エレスクバーク氏ノ著ハス所原名エキュード  
 ドクトロアー一千八百五十六年巴理府ニ於テ出  
 板セシ者ナリ其大旨ハ詳ニ緒言ニ見ユ頃口  
 同志相謀リ米人ヴェルベッキ氏ノ口授ヲ請テ之ヲ  
 譯記シ更ニ校合シテ以テ梓ニ付ス然レモ原  
 書語簡ニ意深シ勉テ原意ヲ失ハサランコトヲ  
 要ス故ニ行文蕪雜或ハ重複アルモ之ヲ省ル

門7  
928  
卷1



ニ違アラス猶他日ノ再訂ヲ期ス

一新ニ譯字ヲ下スモノハ原語ヲ傍書シ適當ノ

譯ヲ得ザルモノハ原語ノ下ニ分註シテ其意

ヲ釋ス同語再出スルモノハ之ヲ略ス

一本行中「」アルハ原語「」ハ原註右側ノ○○○

○ハ羅甸語「」ハ人名「」ハ書名左側ノ「」ハ地

名「」ハ官名或ハ爵名ナリ

明治十年五月

志登社負識

法學指鑑目錄

○緒言 ○法ノ總論

○第一篇 ○法律ト道義トノ區別

○第一篇 ○法律ト道義トノ關係

○第一篇 ○正直ノ意義

○第一篇 ○法律ノ字義

○第一篇 ○法律學即「ジュリスプリダンス」



法律ノ區分

○第一卷 自然法

自然法學ノ用

自然法沿革ノ概略

○第二卷 人定法

○第一章 人定法ノ根源

○第一欸 成文法即法律

○第二欸 不文法即習慣法

○第一節 法學者ノ訓條

○第二節 裁判事例學

○第二章 人定法ノ區分

○第一欸 私法

○第一節 民法

伊普通民法

呂特別民法

○第二節 訴訟法

○第二欸 公法

○第一節 建國法即政體

○第二節 政法

○第三節 懲罰法



伊刑法

呂治罪法

○第三款 國際法

○第一節 國際法ノ沿革

○第二節 國際法ノ起源

○第三節 國

伊主權及歐洲中ノ主權國

呂半主權及歐洲中ノ半主權國

○第四節 聯合國

○第五節 國ノ權

伊國土所有ノ權

呂國際條約

○第六節 各國ノ交際

伊國王ニ付テノ禮式

イ敬禮

エ席順

呂公使ニ付テノ禮式

波海軍ノ禮式

○第七節 交際官吏

伊公使



イ 公使ヲ派遣シ及ヒ之レヲ引受

クルノ權

ロ 公使ヲ撰擧シ及ヒ之レヲ指作

スル事

ハ 公使ヲ派遣スルヲニ付テ用井

ルヘキ諸禮式

ニ 公使ノ尊重、特權、免稅

イ 犯<sup>ン</sup>スベカラサルノ權

ロ 信教ノ式ヲ行フ事

ハ 民刑裁判ヲ免ル、事

ニ 租稅徵收ヲ免ル、事

ハ 交際ノ談判

イ 談判ノ術

ロ 交際談判ノ方法

ヘ 公使ノ職務ノ終ル事

呂領事

○ 第八節 義務ヲ行ハシムルニ付テ

サノ處分

甲 穩便ノ措置

呂強迫ノ措置



い 戦法

ろ 戦權ヲ有スル者ノ事

は 宣戦

に 交戦間法律上許ス所ノ措置

は 戦ニヨリテ生スル諸權

イ 敵人ノ身ニ付テノ事

ロ 敵ノ物品ニ付テノ事

其一 陸戦

其二 海戦

へ 交戦間ノ契約

と 局外中立

イ 局外中立ノ要件

ロ 局外中立國ノ權

其一 封港

其二 戦時ノ制禁

其三 海上貿易

ち 交戦ノ終ル事



一	法學之範圍
二	法學之種類
三	法學之地位
四	法學之學科
五	法學之方法
六	法學之發展
七	法學之重要性
八	法學之社會功能
九	法學之國際化
十	法學之未來展望

法學指鑑第一冊

緒言

智識ハ限リアリ故ニ其學科モ亦限リアリ然レ  
モ亦限リアリ  
人ノ精神ハ其運用固ヨリ窮極ナシ故ニ其欲  
ニスル所必ス一ニシテ足ラス常ニ其精神ノ運用  
ニ因テ新趣向ヲ生ス是ヲ以テ其發明ノ數日ニ  
加リ學識ノ量亦従テ大ナリ而メ其發明ハ互ニ  
相因テ生シ其學識ハ或ハ直接ニ或ハ間接ニ互  
ニ相關係ス故ニ學科數種ノ別アリト雖モ猶親



戚ノ相統屬セルカ如ク必ス相關係スル者ナリ

大古ノ理學者既ニ其關係ヲ了得セリシセロ馬羅

人紀元前四著ハス所ノ能辨者ノトト題スル書

ニ言ヘルアリ曰ク

カツレ汝嘗テ聞カスヤプラト希臘人紀元前

頃スニ言ニ曰ク凡ソ學者及ヒ諸術學ノ教ハ

其結束スル猶一社ノ如シト此言真ナリ疑フ

勿レ

シセロ詩人アルキノ訴訟ノトヲ周旋セシキ又

左ノ言アリ曰ク

凡ソ術學ハ各種ナリト雖モ結束アリテ互ニ

關係シタル者ナリ

近年ノ學者英ノベコンハ其著セル諸學問新法

ニ獨逸ノライプニツハ其著セル法學ヲ學ヒ及

ヒ之ヲ教フル新法ニ佛ノタランベールハ其著

セル諸學字書凡例ニ佛ノギゾトハ其著セル諸

學字書ノ序ニ於テ各其卓見ヲ以テ諸學相關ス

ルノ理ヲ看破セリ其他諸學者ノ見茲ニ及フ者

亦多シ

右ニ論述スル所ノ諸學諸術ノ關係ハ即チ所謂



「アンシクロペデー」ナリ「アンシクロペデー」ナル  
 語ハ古昔希臘語ノ「エンクペリヨース、パイデヤ」  
 ヨリ轉シタル者ナリ自由ヲ得タル奴隷ニアラ  
 フ希臘人ノ必ス學フベキ學問ノ範圍ヲ「エンク  
 プリヨースパイデヤ」ト云ヒシナリ今日ニ在リ  
 テハ其詞意太タ廣ク碩學鴻儒ト雖モ其範圍ヲ  
 究ムル能ハサルニ至レリ故ニ之ヲ究ムル「太  
 タ浩漭ニシテ一人以テ萬事ヲ通曉スル能ハス  
 古語ニ曰ク吾等皆ハ皆ヲ為ス」能ハス一人ニ  
 事ヲ為ス能ハサル故ニ廣大ナル學問ノ範圍中ニ於

テ自ラ其區分ヲ撰ヒテ之ニ從事シ又其目的ヲ  
 立ツルヲ緊要トス然レ凡ソ諸學諸術互ニ相  
 關係セル者ナルヲ以テ己レノ目的ノニ泥ミ  
 他ノ學術ヲ顧ミサルハ不可ナリ「アンシクロペ  
 デー」ハ學問上ニ於テ猶貯庫ノ如シ其資ヲ得サ  
 レハ學問進歩ノ活發力ヲ得ル能ハス故ニ學者  
 ハ何レノ學ヲ問ハス之ヲ學フノ始メニ於テ其  
 學ハ何ノ派ナルカ其必要ナル原由ハ何クニ在  
 ルカ他ノ學トノ關係ハ如何諸學中ニ於テ其位  
 置ハ如何ト預メ之ヲ審察セサルヘカラス而後



ニ其學ヨリ出テシ小支流ハ如何カ之ヲ分ツヘ  
キ其各小支流互ノ關係ハ如何ナル者ゾ又其各  
小派ハ何ヲ以テ昌ナルカ何レノ時ニ於テ何レ  
ノ方向ヲ以テ此派最モ繁盛セシカ何人カ始テ  
之ヲ養ヒシカ等ノ下ヲ推究スヘシ

右ノ方法ヲ以テ學派ヲ教ニルヲ獨逸人之ヲア  
ンシクロペダト云フ又之ヲ分テエンテルト  
**内**トエキステル**外**トノニツトシ或ハ又マテ  
リエル**質**トフォルメル**貌**トス而メ之ニ加フル  
ニメトドロジ難形學即ヲ以テス此旨趣ニ就

テ獨逸人著ハス所ノ書太タ多シ其書目ヲ撮録  
スル左ノ如シ

法學ノ**アンシクロペダ**及ヒ**メトドロジ**  
ノ汎論

**アベク**著ス 千八百二十四年出版  
國政學及ヒ法學ノ要科ノ講譯五冊 第一冊ニ

**ハールド**著ス 千八百三十八年出版  
獨逸法ノ**アンシクロペダ**

**ブルメ**著ス 千八百五十二年出版



獨逸國ノ人定法ノ「メトドロジ」及ヒ「アンシク」

「タベロ」著ス 千七百九十六年出版

法學ノ範圍及ヒ其區分又其資助學並ニ法學ノ「アンシク」

「アイゼハル」著ス 千八百四年出版

法學ノ「アンシク」

「クル」著ス 千八百三十九年第四版

出版

右第四版ハペラノ註ヲ加ヘ之ヲ佛語ニ譯

シ千八百四十一年巴理ニ於テ出版

法學ノ「アンシク」及ヒ總テノ法學ノ

「システム」

「フリードレンデル」著ス 千八百四十七年

出版

法學ノ「アンシク」

「ガウプ」著ス 千八百二十三年出版

法學ノ「アンシク」及ヒ「メトドロジ」

「キルデマイステル」著ス 千七百八十三年

出版



法學ノ緒言並ニ「アンシクロペヂー」ト「メトド  
ロジック」ヲ含ム法學ノシステム

「グリンドレル」著ス 千八百八年出版

法學及ヒ國政學ノ「アンシクロペヂー」ト「メ  
ドロジック」トノ順序ニ顯ハシタル緒言

「テヘツス」著ス 千八百十三年出版

法學ノ「アンシクロペヂー」及ヒ「メトドロジ  
ック」ノ略論

「ハウヘラント」著ス 千七百九十七年出版

人定法ノ「システム」即チ「システム」ノ順ニ從テ

著シタル「アンシクロペヂー」

同人著ス 千八百三年出版

法學ノ「アンシクロペヂー」ノ緒言

「ヒュゴ」著ス 千七百九十二年出版 千

八百三十五年再版

人定法ノ「アンシクロペヂー」四冊

「ホンメル」著ス 千八百四年出版

總體ノ法學ノ「エレメンツ」原質

同人著ス 千八百五年出版

獨逸國ノ人定法ノ「アンシクロペヂー」及ヒ「メ



トドロジ「ノ」グロンドリス大意

ケンメレル著ス 千八百十六年出版

人定法學ノ「ブレピー」資助及ヒ「アンシ

クロペヂ「ト」メトドロジ「

コ「ール」シツトル著ス 千七百九十七年出

版

一般ノ「アンシ」クロペヂ「」及ヒ其格別ナル法

學ノ大意及ヒ其目的ノ「

コ「ノ」パック著ス 千八百五年出版

法學ノ緒言

「デ」レウ著ス 千八百三十五年出版

法學ノ一般ノ預科學

「マ」エル著ス 千七百八十六年出版

獨逸國ノ人定法ノ「アンシ」クロペヂ「」及ヒ「メ

ト」ドロジ「」ノ緒言

「ミ」レンブロック著ス 千八百七年出版

法學ノ「アンシ」クロペヂ「」及ヒ「メ」トドロジ「

ニ付テノ講譯ノ大意

「プ」クタ著ス 千八百二十二年出版

「アンシ」クロペヂ「」ノ緒言



同人著ス

千八百二十五年出版

法學ノ「アンシクロペヂ」及ヒ「メトドロジ」ニ付テノ新説

「プットル」著ス

千七百五十七年出版千

七百六十七年再版

獨逸法學ノ「アンシクロペヂ」及ヒ歴史

「ライテマイエル」著ス 千七百八十五年出

版

法學ノ「ジステマ」及ヒ「メトドロジ」

「ロダルト」著ス 千八百十二年出版

歐洲法學ノ「アンシクロペヂ」

「シマルツ」著ス 千八百二十五年三版

法學ノ「メトドロジ」

同人著ス 千八百一年出版

法學ノ「アンシクロペヂ」ノ緒言

「スノベル」著ス 千八百十九年出版

法學ノ「アンシクロペヂ」及ヒ「メトドロジ」

ノ新説

「シヨット」著ス 千七百九十四年六版

獨逸國法律ノ歴史及ヒ「アンシクロペヂ」



「タフンゲル」著ス 千八百年出版

法學ノ「メトドロジ」ニ付テノ一ノ試験

同人著ス 千七百九十六年出版

法學ノ「アンシクロペヂ」及ヒ「メトドロジ」

「チボ」著ス 千七百九十七年出版

法學初歩小本

「チットマン」著ス 千八百二十八年出版

法學一般ノ緒言

「ヴァンテルホルツ子」著ス 千八百十二年

出版

法學ノ「アンシクロペヂ」及ヒ「メトドロジ」

ノ緒言

「ゾーゲル」著ス 千八百二十九年出版

法學ノ「アンシクロペヂ」即チ法學ニ付テノ

「オールガニク」類部

「ヴァルンクローニク」著ス 千八百五十三年

出版

一般ノ法學及ヒ國政學ノ「アンシクロペヂ」

及ヒ「メトドロジ」

「ヴェルク」著ス 千八百二十九年出版



法學ノ「アンシクロペデー」及ヒ「メトドロジ」ノ緒言

「ザエンク」著ス 千八百十年出版

獨逸法學ノ「アンシクロペデー」及ヒ「メトドロ

ジ」ノ緒言

「テ、ガエニング、インゲンハイム」著ス

千八百二十一年出版

法學ノ「アンシクロペデー」ノ大意

「ザカリヤ」著ス 千七百九十五年出版

他國人ノ著書ニ於テ余ハ唯左ノ數部ヲ撮録ス

法學ノ「アンシクロペデー」

和蘭人「エン子、デンテックス」著ス

千八百三十九年出版

法學ノ「アンシクロペデー」

伯耳義人「ルセル」著ス 千八百四十三年出版

版

國政學及ヒ法律學ノ「アンシクロペデー」ノ緒言ニ付テノ例

伊太利人「サンベリ」著ス 千八百二十八年

出版



國政學及ヒ法律學ノ緒言ニ付テノ「アナリチ」  
ク併ノ例

伊太利人「アウビ」ニ著ス 千八百三十九年

出版

法學ノ「プロヘドイチック」資助即チ法學ノ豫科  
學

魯西亞人「ストツカルト」著ス 千八百三十八

年出版

「アンシクロペヂ」ノ目的ハ其學派ノ大旨ト其  
基礎トヲ知り其學ノ部分ヲ繹子其境域ヲ定メ

而シテ他ノ關係ノ學トノ區別ヲ明カニスルニ在  
リ。喻ヘハ圓形ヲ圖スルニ其心點ト其周圍ヲ定  
メ其各半徑線接線ヲ畫スルカ如シ。千七百六十  
七年ピテル始テ之ヲ「アンシクロペヂ」ト名ク  
然レモ既ニ十六世紀以來獨逸ニ於テ成リ立チ  
シ講習ナリ。佛國文部省ハ千八百四十年ニ於テ  
更ニ之ニ命スルニ「アントロポグレヨン」セ子ヲ  
「ルア、レ、ク、ド、ド、ロ、ア」ナル名ヲ以テシテ  
之ヲ佛國ニ關キタリ同年六月廿九日、文部卿ヨ  
リ大學區長ヘ回達ノ文ニ曰ク



獨逸國學問ノ盛ナルヤ學トシテ「トドロシ」ヲ講習セサルナキハ汝ノ能ク知ル所ナリ予更ニ命スルニ「アシト」ロヂクシヨレ、ゼ子ラール、ア、レ、チ、ド、ド、ロ、ア、」ノ名ヲ以テシ巴厘ノ法學派ヲシテ之ヲ講習セシムヘキヲ國  
 五ニ申稟セリ

按スルニ此文誤リアリ「巴厘」ニ於テ文部卿ノ関キシ講習ハ「トドロシ」ニ非スシテ「アシシクロペヂ」即チ獨逸ノユリスチセ、アシシクロペヂ「又アシシクロペヂール、レ、ク、グ、イ、ッ、セ、ン、シ、ヤ

「ト」ト稱スル者ナリ「トドロシ」ノ講習ハ必ス「アシシクロペヂ」ノ講習ノ後ニ於テスルヲ例トス「トドロシ」ノ講習ハ法學ニ用ヰルベキ部分ト順序并ニ其講習ニ益アル方法ヲ詳カニスルノ説明ナリ獨逸ニ於テハ教師其教ノ方法ヲ立ル各自ノ隨意タリ故ニ別ニ此講習ナカ  
 ルベカラズト雖モ佛國ニ於テハ教師ノ教フベキ總テノ科目及ヒ其一定ノ順序又學校試験ノ科目ト其順序ハ皆文部ノ法律及ヒ其規則ニ於テ定メタルヲ以テ別ニ「トドロシ」ヲ學ブヲ



要セズ

アロトロクシヨシ、セ子ラール、アレチード、ド、ド  
ドロアールノ講習ハ其目的左ノ如シ

初メテ法學ニ入ル者ヲシテ先ツ其單一ナル大  
意ヲ知ラシムル事

其學ノ區分ヲ指示シ又人其區分ヲ精究スル能  
ハザルモ其區分ヲ知ルノ肝要ナルヲ指示スル

事

古今ヲ論セス法ノ根元ノ沿革ヲ略知セシムル  
事

立法者若クハ法學者著ハス所ノ法學書ノ名ヲ  
順次ニ示ス

理學フロソフィ語學リンゲ歴史リシ醫學イハク等ノ資助學ヨリ法學ニ得ル  
所ノ益ヲ示ス事

生徒ノ業進歩スルニ從テ其思考スル所ヲ平常  
又ハ職務上ニ於テ實施スベキ方法ノ目的ヲ知

ラシムル事

法學ハ其全體完備シ其部分互ニ密著シテ相離  
レサル者トス而シテ其全體ヲ識ルハ唯「ア」ンシ

クロペチールノ講習ニ在リ是以テ法學ノ一部分



ノミヲ學ヒ其他ヲ顧ミサルハ謬見タルヲ知  
 ルヘシ彼ノ博ク學フヲ以テ其業ニ益ナシトシ  
 テ專ラ已レノ主トシテ學フ所ノミヲ備ムルハ  
 喻ヘハ他國ニ出ツルヲナシトシテ只自國ノ地  
 理ヲ學フカ如シ彼ノ新和蘭ノ遠キ已レノ行ク  
 コトアルナカルベシト雖モ地理ヲ學フ者ハ必  
 ス海外ニ此國アルヲ知ラサルベカラズ法學者  
 モ亦然リ封建法ドラスユタル法律等ノ如キ今日ニ用ナキ  
 者ト雖モ尚ホ之ヲ知ラサルヘカラス故ニ地理  
 學ハ必ス地球圖ヲ以テ始メトシ法學ハ必スア

ンシクロペヂー」ヲ以テ始メトスベシ若シ生徒  
 ヲシテ法學ノ全體ニ通スルヲ後ニシ一學派ヲ  
 修ムルヲ先キニセシメハ猶地理ヲ學フ者佛國  
 ノ位置地球ノ何レノ度ニアルヲ知ラサルニ邑  
 村ノ小ナルヲ教フルカ如シ其順序ヲ失フ者ト  
 謂フベシ  
 「アンシクロペヂー」ヲ以テ法學ノ門戸トスルハ  
 其益太タ多シ生徒レイト文學ヨリ法學ニ入りシ初メ  
 ニ當リ其轉歩ノ進路ヲシテ困迷ナカラシメサ  
 ルニ在リ抑少年生徒進業ヲ圖ルノ輕銳ナル一



且學路ノ險難ナルニ遇テ猝ニ其思慮ヲ苦ムル  
 ハ精神ヲ養フノ法ニアラズ立法及ヒ法學ノ評  
 論新聞紙中ニヘツプ言ヘルアリ曰ク年少未タ民法  
 ノ主意人定法ノ熟語作文ノ法ヲ知ラスシテ只  
 文學ヲ修メタル心ヲ以テ階梯ナク直ニ民法ノ  
 講習ニ入レハ其惛迷亦甚シカルベシ故ニ苟モ  
 平日ノ經驗ニ因テ能ク之ヲ知ル者ハ必ス「アン  
 シクロペヂ」ヲ學ブノ必要ナルヲ知ル正實  
 ノ生徒ト雖モ新ニ學ブ所ヲ好ムニアラス必ス  
 規則ニ從ハザルベカラザルヲ信シテ之ヲ勤メ

就學ヨリ六ヶ月間ハ暗中ニ前行スルノミ其他  
 ノ生徒ニ至リテハ輕躁浮薄ニシテ始メヨリ其  
 學ヲ厭フ者アリ但懲戒ヲ畏レ強テ其業ヲ執ル  
 ガ故ニ能ク達スルヲナシト以上ベツ論此ノ如キノ  
 弊ヲ矯正スルハ只「アンシクロペヂ」ノ講習ア  
 ルノミ且法律ノ原書ト法律ノ條款ノ多キトヲ  
 諳シスルノ困苦少ナカラシムル亦此講習ニ在  
 リ人或ハ此講習ヲ以テ疎略ニシテ只其表面ヲ  
 教フ即チ「オムニブス、アリクイット、デトトニヒ  
 ル」全キコトノ一ツモナク總ナリトスルハ大ナ  
 テノ事ノ必ヤツ、ノ意



ル謬見ト謂ツベシ此講習ハ固ヨリ豫科ノ學ニ  
 シテ法律各科ノ深奥ニ達スルノ門戸即チ法律  
 ノ緒言ニシテ時ニ之ヲ學フノミヲ以テ直ニ法  
 學者タルヲ得ス唯生徒ノ為メニ其目的及ヒ其  
 目的ニ達スルノ方法ヲ示ス者ノミ  
 アシシクロペザリノ講習ヲ終ルトキハ法律ノ  
 大意ヲ識リテ法律ノ各科ニ就クニ容易ナラシ  
 メ且法學廣大ノ全局ヲ悦ヒ始メ之ヲ好マサル  
 者モ亦之ヲ嗜ムニ至ル是ヲ以テ今日ノ生徒ハ  
 偏見ヲ去テ各其學フ所ニ沈潛スルヲ得又其

學フノ始メニ於テ既ニ法語ノ基ツク所ヲ知リ  
 略ホ法學ノ各派ニ通シ其己レノ性ニ近キ所ノ  
 派ヲ擇テ學フ所ノ目的ヲ定ムルヲ得ベシ猶  
 他國ニ行ント欲スル者先ツ地圖ニ依テ其遠近  
 フ測ルカ如シ盲人妄行シテ其行ク所ニ達セ  
 ンヲ僥倖スルノ比ニアラズ又彼ノリサンス<sup>ニ</sup>  
 博士<sup>博</sup>或ハドクトラ<sup>一</sup>ヲ得ルノミヲ以テ目的ニ  
 達セリト為スノ比ニアラズ又法學者ノ名ヲ得  
 ント欲セハ學校試験ノ必要ノ部ノミヲ學フ者  
 ヨリ博カラサルベカラザルハアシシクロペデ



一レヲ講習シタル生徒ノ能ク識ル所ナリ  
 又生徒現ニ學フ所ト又學バシト欲スル所トノ  
 順序ヲ明ニシ又大學校ノ法學ヲ教授スル規則  
フルドシテ  
 ニ於テ猶重要ナルコトノ欠遺ヲ補フノ方法ヲ  
 得ルニ至ルベシ地方大學校ニ於テハ別ニ法律  
 歴史ノ教師ヲ置カズ民法成典ノ教師ハ例ヘハ  
 レゼルブ民法第九條 或ハ共通財產民法第一百  
百十三條 下ノ主意ノ原由ト其沿革ヲ説クニハ其事ノ内  
 部ノ歴史ヲ示スベシ然レドモ其教師ノ教フベ  
ルノ歴史ヲ示スベシ然レドモ其教師ノ教フベ  
 キ書甚タ多クシテ外部ノ歴史及ヒ佛蘭西法律  
イストワール、エキステル

ノ古文ニ及フニ違アラサルナリ佛蘭西法律ノ  
 古文トハ即チロア、サル佛蘭西舊人種ノ名  
 十四年「ロア、リュピエール」同「カピツレール」本書  
 ニ成ル「ア、シーズ、ド、ゼルガルム」「コ、ブ、リ、シ、ヨ、ン」  
 十一條「ア、シーズ、ド、ゼルガルム」「コ、ブ、リ、シ、ヨ、ン」  
 詳カナリ「ア、シーズ、ド、ゼルガルム」「コ、ブ、リ、シ、ヨ、ン」  
 王ゼルサレハニ於テ「グ、ム」「風等是ナリ又「エン」  
 立タル法千百年前「ク、ム」「習等是ナリ又「エン」  
 ステ「チュ、ド」「法、説ク人」ノ教師ハ始メニボンポ  
 ニスノ著ハセシ「テ、オリジ子、ジュリス」「法、根元」或ハト  
 リボニエンノ著作ヲ教フベシト雖モ生徒ノ早  
 成ヲ期スルガ故ニ學科ヲ略セザルベカラズ故  
 ニ羅馬法律ノ歴史文學又ハ書目一覽ヲ教フル  
「イストワール、エキステル」

法學打録 第一冊 三  
 法學打録 第一冊 三  
 法學打録 第一冊 三



ニ違アラズ是ヲ以テ生徒ノコルプス、ギリスシ  
ビリス編成民法ヲ講習スル者ナシ「コデックス、テ  
トドジアヌス羅馬法典「コルプス、ダロサトム法典  
註ニ於テハ之ヲ讀ム者少ナシ「ドロアーダレコ  
ローメン希臘羅馬兩法ノ古文ニ至リテハ概シ  
テ之ヲ看タル者ナシトスモルトロリユ氏著ハ  
ス所ノ「ドロアー、ピサンテシ東羅馬ノ一名今歷  
史ノ序文ニ云ヘル「アリ曰ク余法律ニ等博士  
ノ免狀ヲ得タルトキニ於テ實ハ「バシリックバシ  
帝ノ命ヲ以テ希臘語ニ何物タルヲ知ラサリ  
譯シタル羅馬律書ノ名

シト蓋シ氏ハ盡ク大學校ノ規則ヲ踏ソル者ナ  
ルニ猶ホ此重要ノ書ヲ看ル能ハサリシナリ故  
ニ余生徒學問ノ不足ヲ補ハンカ為メニ此書中  
ニ於テ希臘羅馬ノ法ノ大意ヲ説キ其法至要ノ  
書目ヲ掲ケタリ然レドモ固ヨリ十分ナルニ非  
ズ是初學ノ為メニ簡約ヲ旨トスルヲ以テ亦已  
ムヲ得サル所ナリ  
前ニ陳述スル各種ノ大意ヲ生徒ニ教フルニハ  
「アントロジユクシヨニ、ゼ子ラトルヲ以テセザル  
ベカラズ而シテ之ヲ教フルノ方法ハ教師教授

法學

卷一

第一



ノトキニ於テ要用ノ書類又ハ必用ナル古書ヲ  
説カハ生徒常ニ讀ミ且聞クコトヲ厭フ所ノ書  
目一覽ト雖モ亦之ヲ教ヘ得ヘシ是余カ實驗ス  
ル所ナリ

宗教法ハ奇稀且重要ナル者ナレドモ其歴史及  
ヒ其大意ヲ生徒ニ教フルハ大學校規則ノ外夕  
リ故ニ二等法律博士モ編成教法ヲ知ル者ナシ  
況ヤ其書中ノ節目ヲ指示スルヲ得ンヤ此書中  
又國際法ニ於テ怪ムヘキコトアリ佛國ノ法學校  
中唯巴理及ヒストラスブールノ法學校ニ於テ

之ヲ教フルノミ此ニ校ニ於テモ博士ノ階級ヲ  
得ント欲スル者ノミ之ヲ學ビ必年生徒ハ其大  
意ト其歴史及ヒ其書籍ニ通ゼズシテ退校シ代  
言人タル者アリ實ニ惜ムヘシ殊ニ覆審院ノ評  
議官及ヒ裁判官ハ一等法律博士ノ免狀ナキモ  
其職ヲ得ベキヲ以テ國際法ヲ知ラサルハ法ノ  
咎ムル所ニ非スト雖モ之ヲ學ハサルハ甚夕怪  
ムヘキニ非スヤ故ニ余之カ為メニ國際法ヲ節  
略シテ此書ニ加フ生徒其大意ヲ得始テ法學中  
ニ於テ國際法一派ノ學ノ重要ナルヲ知リ因テ



以テ此學ニ志ス者アルニ至ラン又此學ハ歐洲  
現今ノ景狀即チセバストポールノ役ヨリ生ス  
ヘキ各種ノ混亂ト國際法ノ理ヲ適施スヘキ各  
種ノ事件トニ於テハ特ニ必要ナリトス  
又更ニ重要ナルモノアリ自然法是ナリ其一ハ  
少年<sup>モラル</sup>道德上ノ病ヲ療スルノ藥石タリ殊ニ自由  
ト政體トニ於テ少年ノ謬說ヲ矯正スルニ第一  
ノ「アンチドール」ト毒ヲ以テ毒ヲ  
吐カセル藥ヲタリ其二ハ法學  
者ニ於テ必要ナリトス何トナレハ佛國ノ立法  
者ハ自然法ヲ以テ人定法ノ不足ヲ補フモノト

ナシ又法律ノ不備或ハ不委ナルニ於テハ自然  
法ニ依ルヘキト定メタリ(本書第十一章見合)  
共和政治十二年風月廿二日ノ法律第二條ニ自  
然法ノ貴重ナルコトヲ掲載セリ然レドモ法律  
學校ニ於テ之ヲ教フルコトナク法律博士モ亦  
其何タルヲ知ラサルナリ是ヲ以テ實際ニ於テ  
ハ少年輩國政ノ磁針ナクシテ專横ノ點ニ陷リ  
自ラ以テ自由ヲ行フトナシ法學者ハ一己ノ情  
義ニ從ヒ自ラ以テ自然法ヲ行フトス故ニ大學  
校中ニ未タ自然法學科ノ設ケアラサル間ハ「ア



ンシクロペデーノ講習ヲ以テ其大意ヲ教ワル  
ハ他ノ學派ニ抵觸スルコトナクシテ其不備ヲ  
補フニ足ルベシ

余又有名法學者ノ姓名及ヒ小傳ヲ此書ニ記ス

小傳略ナリト雖モ亦以テ生徒ヲシテ法學ノ諸

名家ヲ識ラシムルニ足ラン即第二百十七章ニ

於テ之ヲ詳説セリ

終リニ又古今法律中或ル法律ノ「テタリユ」細目

ヲ略記セリ然レドモ特ニ希臘及ヒヘブライノ

法律ノ概略ヲ示シ以テ生徒ヲシテ之ニ因テ自

ラ其詳細ヲ學ハント欲スルノ志ヲ起サシムン

コトヲ希望スレハナリ果シテ一人能ク其志ヲ

起ス者アラハ則チ余ノ希望ニ於テ足レリトス

更ニ此ニ附記スルニ文部長官クゼンノ國帝ニ

呈シテ巴理法學校中ニ「アンシクロペデー」ノ科

目ヲ設ケントヲ請フノ書ヲ以テス其書ニ曰ク

此書ハ千八百四十八年六月

臣謹テ按スルニ方今法學猶ホ不備ナル所ア

リ請フ之ヲ補ハン夫少年生徒我カ學校ニ入

リ其法學ニ從事シ直ニ民法及ヒ羅馬法ヲ學



ブ譬へハ猶ホ他國ニ往キテ其地理國語ヲ知  
ラサル者ノ如ク其學ノ所ノ一派ハ法學ノ全  
面ニ於テ如何ナル點ニアルヲ知ラス是ヲ以  
テ其學ノ趣旨ヲ得スシテ遂ニ之ヲ厭ビ或ハ  
又テタリユ細目ノミヲ委ノミニ偏スル者少  
カラス人ヲ教フルノ道此ノ如クナレハ則チ  
生徒ヲシテ該博ニ至ラシムルヲ得サルノ障  
害アリ故ニ識者法學ノ錯綜セル所ニ於テ之  
カ示導トナルベク又法學ノ大意ヲ領スヘク  
又其各派ノ旨趣ト其各派相互ノ關係及ヒ其

真理ヲ見ルヘキガ、ルブレリミ子ルノ總論  
義即預科ノ意ヲ設ケンコトヲ希フ甚タ切ナリ此豫  
科ハ法學一般ノ方法ト各派必用ノ程度トヲ  
定メ學問進歩ノ為メニ切要ノ書類ヲ示スモ  
ノトス故ニ此豫科ヲ設クルトキハ必ス生徒  
ヲ教育スルコト、生徒ノ勉強ト其智識道德  
ノ進歩トノ為メニ其効鮮少ナラサルベシ  
此書ノ詳明ナルニ對シテ猶附記スヘキハ唯前  
ニ記セシ文部長官廻達ノ文アルノミ其文左ノ  
如シ

法學指掌

第一冊

三



法學ノ全體ヲ明ニシ又其大旨ト真理トヲ領  
 セシムルハ生徒ノ為メニ必要トス法學校ハ  
 即チ法學アリシクローペチ<sup>ル</sup>ノ大ナル者ナリ  
 故ニ生徒始メテ入校セシキ<sup>ル</sup>アンシクローペチ  
 一<sup>ラ</sup>以テ之ニ教ヘハ奮勵シテ自ラ法律ヲ尊  
 敬スルノ心ヲ生シ學ヲ所何レノ派タリト雖  
 モ必ス法學ノ諸派ヲ悦フニ至ラン

○第一編

法ノ総論

法律ト道義トノ區別  
モラト

第一條

人<sup>ノ</sup>性<sup>學</sup>ヨリ論スレバ人ハ自由ナル者トス之ヲ  
 詳説スレバ自由ハ人ニ自ラ備リテ凡百ノ行為  
 ノ原因タリ此自由ハ人ノ獨リ有スル所ノ特權  
 ニシテ他ノ萬物ノ有スル能ハザル者タリ而シ  
 テ人内外トナク自由ナラザルナレ内ノ自由ト  
 ハ我カ心情ハ我カ自由ニス可キヲ云ヒ外ノ自



由トハ我カ心情他ニ束縛セラレザルヲ云フ内  
 ノ自由アリ故ニ意志ニ任セテ善ヲ為ス可ク惡  
 ヲ為ス可シ外ノ自由アリ故ニ他ヨリ我カ意思  
 ヲ在ケシムル能ハズ又我が行為ヲ沮ムル能ハ  
 ス

人此ノニツノ自由アリト雖モ固ヨリ其性質ト  
 天理トニ因テ必ズ為ス可ク必ズ為ス可カラザ  
 ル義務アリ以テ其自由ヲ限制ス其義務亦内外  
 ノ別アリ内義務之ヲ道義ト謂ヒ外義務之ヲ法  
 律ト謂フ内義務ハ我カ本心ノ外ニ之ヲ主宰ス

ル者ナシ(内部ノ裁判即本心)我レ人ノ不幸ヲ悦  
 バズ又人ノ恩ヲ忘レザルハ即チ我カ内義務ニ  
 シテ唯神ノ知ル所此ノ義務ニ背クモ亦唯神ノ  
 罪スル所ナリ故ニ人威カヲ以テスルモ我ヲシ  
 テ此義務ヲ必行セシムルヲ得ズ人固ヨリ此義  
 務ヲ我ニ必行セシムルノ權利ナケレバナリ喻  
 ハハ我ニ乞丐者ヲ憐恤スルノ義務アリト雖モ  
 乞丐者我ニ憐恤ヲ責ルノ權ナキガ如シ之ヲ名  
 ケテ不完全ノ義務ト云フ外義務ハ之ニ異ナリ  
 名ケテ完全ノ義務ト云フ如何トナレバ此義務



ハ人ノ自由ヲ妨害スルノ行為ヲ制止スルニ  
リ故ニ我人ニ盡ス可キノ義務アレバ人我ヨシ  
テ之ヲ必行セシムルノ權ヲ生ス此義務ハ其權  
ヲ掌ル者之ヲ主宰シ外部ノ裁判即政府其義務  
ノ必行ヲ責ルガ為メ威力ヲ用ヰルヲ得ル抑  
人相聚リテ一社會ヲナス必ズ外義務ヲ行ハザ  
ル可カラズ喻ヘバ猶ホ負債者必ズ償還ヲ為シ  
物ヲ買フ者必ズ其價ヲ拂フカ如キ是ナリ苟モ  
人各其義務ヲ盡サレバ其社會ヲ全スルヲ得  
ズ故ニ威力ヲ用ヰテ以テ其必行ヲ責ルハ理ノ

必然ナル者ナリ  
道義ハ人ノ行為ノ因テ生スル所ノ心意ヲ示導  
シ法律ハ心意ノ如何ヲ問ハズ行為ニ顯ル、所  
ノ形跡ヲ處分ス道義ノ示導スル所ハ即チ本心  
ヲ正クスルニアリ法律ノ處分スル所ハ人々共  
同ノ道ヲ盡スニアリ道義ノ教ハ常ニ定リテ變  
セスト雖モ法律ノ規則ハ時ト事トニ因テ變易  
ス如何トナレハ人ノ群集シテ社會ヲ為スノ景  
狀或ハ其開進ノ程度ト時勢トニ因テ變移アリ  
故ニ法亦從テ變易セサルヲ得ズ道義ト法律ト



ノ區別判然ナル此ノ如シ而シテ此區別ヲ紊サ  
ルヲ切要トス此區別ハ我黨ノ發明シ得テ最  
モ貴重スル所即チ本心ノ自由ノ保護タル者ナ  
リ若シ其別ヲ明ニセス法ノ主宰者其威權ヲ以  
テ處分スルノカヲシテ人ノ道義上ニ及サシメ  
ハ主宰者ハ己カ欲スル所ノ道ヲ立テ人ニ其必  
行ヲ責ルニ至ラン是レ人ハ主宰者ノ威權ノ為  
ニ其本心ノ自由ヲ壓抑セラル、ナリ果シテ此  
ノ如クナラハ世ノ論理學者公法學者及法學者  
等皆憤發協力シテ二者ノ別アル所以ノ真理ヲ

主張セン然レ凡此二者ノ別アル相背馳シテ相  
容レサルノ謂ニ非ス其實ハ却テ相纏繆シテ相  
離レサル者トス或ハ纏繆セサル所アリト雖モ  
其關係ヌル甚タ近密ナル者ナリ

法律ト道義トノ關係

第二條

前條ニ論スル如ク法律ト道義ト混ス可カラ  
ト雖モ亦必ス之ヲ分ツ可カラス夫レ法律ト道  
義ト固ヨリ相背ク者ニ非ス道義ニ適スル者ハ  
亦必ス法律ニ適ス道義ノ制止スル所法律亦之



ヲ制止セサルヲ得ス法律ト道義トヲ分ツニ付  
テ生スル誤リハ之ヲ混スルニ付テ生スル誤リ  
ヨリ更ニ大ナルヘシ故ニ立法者ハ道義ニ背テ  
法律ヲ立ツ可カラス制度ノ道義ニ適セサル者  
ハ永續ス可カラサルノ理ヲ識ランコトヲ要ス  
之ニ反シ一時ノ利ヲ求メ道義ニ背キ永續ス可  
カラサルノ規則ヲ立テ國民之カ為ニ屢不幸ニ  
罹リシハ萬國ノ史衆之ヲ徴ス可シ但シ道義ノ  
區域ハ法律ノ區域ヨリ太々廣シ故ニ道義ノ制  
止シ又示導スル所法律ノ制止シ又示導スル所

ニ比スレハ太々廣ク且不易ナルハ言ヲ待タス  
今二者ノ關係ヲ分ツ左ノ如シ

第一 法律ノ示導シ又制止スル所ハ道義ニ

於テ亦之ヲ示導シ又之ヲ制止ス如何  
トナレハ道義ノ内義務ハ人ニ外義務  
ヲ盡サシムルニ在リ例ヘハ海關密賣  
ヲ為スヲ道義ニ於テ制止スルハ國法  
ノ制止スルノ故ヲ以テナリ若シ國法  
税關ヲ廢シ輸出入税ヲ收メサレハ無  
税ノ輸出入ハ法ノ制止セサル所ニシ



テ密賣ニ非ス又之ヲ制止スルノ内義  
 務ナシ故ニ道義ハ法律ヲ助ケテ其力  
 ヲ添ル者ナリ而シテ天神亦道義ト同  
 シク法律ノ力ヲ助ク道義ヲ守ル者ノ  
 法律ヲ犯サ、ルハ刑罰ヲ恐ル、ノ故  
 ニ非ス之ヲ犯サ、ルヲ以テ本心ノ義  
 務トナセハナリ天神ヲ信スル者ノ法  
 律ニ従フハ裁判所ヲ憚ルニ非ス法律  
 ハ天神ノ意ニ適フ故ニ之ニ従ハサル  
 ハ即チ神意ニ背クヲ以テナリ

第二

然レモ道義ノ示導シ又制止スル所ハ  
 法律ニ於テ盡ク示導シ又制止スル能  
 ハス昔羅馬人ノ諺ニ曰ク法律ノ制止  
 セサル所者必シモ盡ク正シキニ非  
 スト是即チ法律ト道義トノ關係ヲ善  
 ク區別セシ語ナリ夫レ法律ハ惟人ノ  
 行為ニ見ハル、所ノ形跡ヲ處分ス故  
 ニ人邪惡ノ意志アル道義ニ於テ容レ  
 ガル所ト雖モ其未タ形跡ニ見ハレサ  
 ルハ法律ノ能ク處分スル所ニ非ス即



チ法律ノ區域ノ外ナレハナリ例ヘハ  
人アリ心ニ其警視スル所ノ者ノ死セ  
ンヲ欲シ或ハ其不幸ニ陥ランヲ希フ  
ハ道義ニ於テ之ヲ制止ス可シ未タ其  
生命ヲ傷シ財産ヲ損シ名譽ヲ汚スニ  
至ラサレハ法律ハ之ヲ如何トモスル  
能ハサルナリ

正直ノ義

第三條

正直トハ人其外義務ヲ盡シテ遺漏ナキノ謂ナ

リ人其本意ノ如何ナルヲ問ハス苟モ其義務ヲ  
盡セハ即チ正直ナリ然レトモ正直亦内外アリ  
其本意純ラ道義ニ在リ之ニ因テ其義務ヲ行フ  
ヲ内ノ正直ト云フ其本意刑罰ヲ恐ル、ニ在リ  
之カ為ニ其義務ヲ行フヲ外ノ正直ト云フ例ヘ  
ハ負債者期滿得免ノ後尚ホ其義務ヲ行フハ即  
チ内ノ正直ナリ之ニ反シテ負債者惟督責ノ為  
ニ己ムヲ得スシテ其義務ヲ行フハ即チ外ノ正  
直ナリ羅馬法學者正直ノ意ヲ解シテ間斷ナク  
各人ニ其權利ヲ與フルト云ヘリ此説ハ内外ヲ



兼不<sup>レ</sup>完全ノ正直ヲ云フ其間斷ナクトハ此解ノ  
贅辭ト雖モ其他ハ正直ノ性質ヲ發揮スルノ語  
ト為ス可シ我レ更ニ其意ヲ補テ曰ク完全ノ正  
直ハ人ニ其與フ可キ者ヲ與フルノミナラス悦  
テ人ニ與フルノ志無ル可カラズ蓋シ法律ハ外  
ノ正直ヲ處分ス可シ内ノ正直ハ道義ノ區域ナ  
リ

法律ノ意義

第四條

ドロア<sup>レ</sup>ナル詞ハ蓋シ羅甸語ノ<sup>レ</sup>デレク<sup>トム</sup>ヨ

リ出タル者ナリ<sup>レ</sup>デレク<sup>トム</sup>ノ語一轉シテ<sup>レ</sup>ドロ  
ク<sup>トム</sup>トナリ再轉シテ<sup>レ</sup>ドル<sup>ア</sup>ク<sup>トム</sup>トナリ終  
ニ又轉シテ<sup>レ</sup>ドロ<sup>ア</sup>トナレリ英吉利語ノ<sup>レ</sup>ライ  
ト<sup>レ</sup>荷蘭語ノ<sup>レ</sup>ウレフ<sup>ク</sup>ト<sup>レ</sup>獨逸語ノ<sup>レ</sup>レシツ<sup>ツ</sup>伊太利  
語ノ<sup>レ</sup>テリツ<sup>ト</sup>等亦皆<sup>レ</sup>デレク<sup>トム</sup>ノ轉ナリ此詞ハ  
規ニ據テ線ヲ畫スルニ比喻シ其畫スル所ノ線  
ノ直ナル即チ<sup>レ</sup>ドロ<sup>ア</sup>ノ意ナリ而シテ<sup>レ</sup>ドロ<sup>ア</sup>  
ハ必ス自然ニ適セル者ナリ故ニ彼ノ比喻ノ  
意ヲ推シテ之ヲ言ヘハ<sup>レ</sup>ドロ<sup>ア</sup>モ亦規ト云フ  
可シ我黨ノ<sup>レ</sup>ドロ<sup>ア</sup>即チ人ノ外義務ノ學ナリ

法律學

第一冊

三六



人ヲ督責シテ其義務ヲ盡サシムルノ權利亦ド  
 ロアールノ一意ナリ凡權利ハ義務ヨリ生ス然レ  
 トモ義務盡ク權利ヲ生ス可キ者ニ非ス道義ノ  
 義務即内務ト裁判ニ係ル義務即外務トハ之ヲ以テ  
 區別ス可シ或ハ法律ト義務トノ關係親子ノ離  
 ル可カラサルカ如シトスルハ謬説ト云フ可シ  
 道義ノ義務一時ニ裁判ニ係ルノ義務ヲ兼ヌル  
 ニアラサレハ決シテ他人ノ權利ヲ生スル者ニ  
 アラス

古昔ハ言詞ニ乏シカリシ故カ或ハ國政學者別

ニ言詞ヲ造ラサリシ故カ前項ニ記載シタルニ  
 意ノ外ドロアールノ詞ニ各種ノ意ヲ兼ヌ其一ハ  
 法律學ノ意タリ例ヘハドロアールノ生徒ト云フ  
 カ如シ其二ハ專ラロアールノ意ニ用ユ例ヘハド  
 ロアールヲ以テ事ニ施スト云フガ如シ其三ハ一  
 種ノロアール或ハ國ノロアールヲ總稱シタルノ意  
 ニ取ル例ヘハドロアール、クリミ子ール刑或ハド  
 ロアール、アンダレ英國法律ト云フカ如シ其四ハ税  
 ノ意ニ取ル例ヘハドロアール、ドタインブル印  
 ロアール、ダシレ記、ゲイストルマン稅ノ如キ是ナリ



法律學即チヰリスプリダンス

第五條

羅馬法學者ノ説ニ曰ク法律學ハ天人萬事ヲ包  
含シ且ツ人ノ正不正ヲ辨識スルノ學ナリト其  
人ノ正不正ヲ辨識スルトハ其説ヲ得タリ天人  
萬事ヲ兼ヌルト云フニ至テハ太夕廣大ニ過ク  
蓋シ昔時羅馬ニ於テハ法律學ハ全ク僧徒ノ手  
ニアリ故ニ法律ハ教法ノ一部ニシテ其關係甚  
夕密接ス彼ノ法學者ノ説ハ其關係ノ密接ヲ示  
サンカ為ニテ且ツドロアト、ヰスサクロム大ニ關係

シタルモノハ中ニ使者ノ高僧ノヲ顧念スル  
役目占トノヲ定ムル法ヲ云フ  
ノ情ニ出タルナルヘシ抑天人萬事ノ學トハ世  
界ノ學ヲ該綜スル者ヲ釋ス可シ以テ法律學ヲ  
釋ス可カラス佛蘭西ニ於テヰリスプリダンス  
ナル詞ハ判然タルニ意アリトス其一ハ説ク所  
至テ廣シ自然法ト人定法トノ學ヲ兼ヌ即チ法  
律ノ道理ノ學及ヒ其規則ノ學ヲ云フ其一ハ唯  
訴訟上ニ於テ用井ル詞ニシテ各裁判所裁判法  
ノ慣習ノミヲ云フ羅甸語ニ之ヲウヌスリノリ裁判  
習ト云フ例ヘハ裁判申渡ノ法律學又ハ某地裁

法律學上告成 第一冊 三六



判所ノ法律學ト云フ如キ是ナリ  
法律學ハ必要ニシテ欠クベカラザルノ學ナリ  
人其一身ノ舉動一家ノ産業ヨリシテ凡畢生間  
ノ事法ニ據テ成立タサルハナシ故ニ造次モ必  
斯ニ於テセサル可カラス其人ニ切ナル此ノ如  
シ而シテ學テ之ヲ得ル亦太タ難シトス夫レ法  
律ヲ識ルトハ帝ニ其文章ヲ知ルノ謂ニ非ス其  
主意ト精義トヲ識ルニ在リ亦唯其原理ト其規  
則トヲ識リ之ヲ比擬スルノミニ非ス之ヲ實事  
ニ施シ毫モ適當セサルナキ之ヲ難シトス之ヲ

詳説スレハ人民ノ衆多ニシテ事故ノ繁雜ナル  
或ハ相牴觸スルアリ或ハ相紛濶スルアリ千狀  
錯出シテ其端得テ數フ可カラス其狀ニ因リ其  
事ニ從ヒ之ヲ酌量シテ法ノ權衡其適當ヲ得ル  
之ヲ善ク法律ヲ行フト云フ夫レ法律ハ事ノ繁  
ナルニ應シテ其條件悉ク備具スルニ非ス必ス  
彼件ニ據リ此條ニ比シ徵照參覈セサル可カラ  
ス而シテ其據ル所比スル所ノ條件直ニ其事ノ  
決定ヲナスニ非ス決定ニ導クノ具タルノミ抑  
立法者ハ無限ノ事故ヲ豫知シテ一々之カ法律



ヲ定ムル能ハス故ニ法律ノ要ハ日ニ生スルノ  
 細事ニ及ホサス其要トスル所ハ全體ニ注目シ  
 テ條件ヲ定メ原則ヲ立ルニアリ而シテ之ヲ萬  
 事ニ施シテ適當セシムルハ法律ノ大意ヲ諳熟  
 セル裁判官ト法律學者トノ任ナリ之ヲ法ノ施  
 行ト云フ事務施行ト事務施行ニ付テノ法律即  
 チ裁判手續ト混スル勿レ若シ法ノ施行ナクン  
 ハ法律學ハ一ノ無用ノ技藝書タルノミ故ニ法  
 ヲ施行スルハ到底法律學ノ大眼目ナリ所謂法  
 ノ施行ハ深ク法律書ニ通ズルヲ要スルノミナ

ラス精神穎敏才智充備シテ判定ノ真正ナルヲ  
 要ス凡法律書ノ條件ハ法律學者ノ為ニ之ヲ喻フ  
 レハビタゴ一ガ著ス所ノ數學表即凡々表ノ如シ其  
 文ヲ誦スル固ヨリ欠ク可カラスト雖モ未タ以  
 テ各種ノ問題ヲ解クニ足ラス善ク其問題ヲ解  
 クハ論理ト判断トニ在リ法律學ハ佛語ニ所謂  
 エギザクトノ學ニ非スト雖モ其決定ニ於テ其  
 精確ナル大抵數學ト軒輊ナシ宜ナルカナライ  
 ブニツ羅馬ノ法學者ヲ以テ測量家ニ比セルナ  
 リ其言ニ曰ク羅馬法學者著ハス所ノ書其力ト



其細密ナルトハ測量書ノ外比ス可キ者ナシト  
法律書ノ深奥ナル亦以テ見ル可シ故ニ法律ヲ  
學フ者ハ其理ト實事トヲ分離ス可カラス而シ  
テ其理ニ達セサレハ實事ノ適施ヲ得可カラス  
若シ其理之ヲ實事ニ施ス可カラサレハ唯無用  
ノ拔萃書ノ是ニ因テ之ヲ觀レハ善ク法律ヲ  
識リ又之ヲ實事ニ適施スルヲ識ル者ニシテ始  
テ法學者ノ名ヲ許ス可シ

第六條

法律ノ意ヲ釋スル能ハサレハ以テ法律ヲ精確

ニ適施ス可カラス法律ノ意ヲ釋ストハ其文或  
ハ兩義ニ亘リ或ハ明晰ナラサル者ヲ推究シテ  
立法者ノ原意ヲ得ルノ謂ナリ獨逸人之ヲヘ  
ルルニスチクル文章ヲ解スト云フ其方法一ナラス  
其文兩義ニ亘リ或ハ明晰ナラサル者ハ學者先  
ツ謄寫或ハ活版ニ因テ誤脱或ハ贅和ナキヤヲ  
校正ス可シ此方法ノ目的ヲクリク評定ト云  
フ古文ノ謄寫ヲ以テ傳ハル者ニ於テ最モ欠ク  
可カラサルノミナラス近時ノ板本ト雖モ亦之  
ヲ欠ク可カラス例ヘハ千八百三年十二月十四



日ノ法律文ハ法律全書ニ於テ誤リアリ又官板  
 ノ訴訟法第八百七十八條前以テ呼出シナクト  
 ノ下誤テ句讀ヲ入ル、ガ為ニ其意ヲ失フ此ノ  
 如キノ類少カラス其文果シテ一ノ謬誤ナクシ  
 テ其意ヲ明ニシ難キ者ハ或ハ文法グラママーヲ以テシ或  
 ハ論理學ロチツクヲ以テシテ其文ヲ釋シ其意ヲ定ム可  
 シ必ス立法者立意ノ源ニ溯リ其論究ノ理ヲ徵  
 シ其原意ヲ得テ後ニ止ム故ニ釋意ノ方法ハ必  
 ス文法ト論理學トノ二ツニアリ  
 論理學ニ於テ法律自然ノ意ヲ釋スルヲ主トス

ルトキハ之ヲ「テ」クラチ「グ」定ソルト云ヒ法律  
 ノ敷衍ヲ主トスルトキハ之ヲ「エ」キスタンチ「  
 ヲ」ト云ヒ法律ノ限程ヲ主トスルトキハ「レ」スト  
 リ「ク」チ「グ」ト云フ敷衍トハ法律文ノ正條ニ非  
 スト雖モ其大意ニ於テ會包シタル者ハ其法ヲ  
 以テ原則トシ之ヲ推擴スルヲ云フ舊法ニ言ル  
 アリ曰ク法律ノ大意同シケレハ其法ノ決定亦  
 同シキ者ナリト抑法學者敷衍ヲ為シ得ル所以  
 ハ偏ニアナロシ「ノ類推ノ力ニ因ルノミツリ」  
 「ハ」曰ク「ア」ナロシ「ハ」意思ノ至ラサル所ト雖モ



立法者ヲシテ啓發セシメ之ヲ導クノ磁針ニシテ且人ヲシテ立法者ハ事ノ生スルニ從ヒ一々其規則ヲ立テス造物者ニ倣ヒ世界同一萬世不易ノ法ヲ立テント欲スルノ意アルヲ知ラシムルモ亦「アナロジ」ノ理ナリ其「アナロジ」ノ理ナルヲ以テ天下ノ人ヲシテ羅馬法律ヲ贊稱シテ道理ノ文字上ニ發顯スル者トスルニ至ラシムト「アナロジ」ト敷衍トノ説ハ舊法ノ旨ニ基ツク者ナリ又「アナロジ」ト敷衍ト必ス其歸ヲ同カスル所以ハ蓋シ法ノ含包スル所ノ意ヲ推

擴シ其正條ナキ者ト雖モ類似スル所ニ適施スルヲ得レハナリ此二者ノ及フ所ハ普通ノ法律上ノミナランヲ要ス特別ノ法ニ及ホス可カラス若シ擴充ス可キノ法特別ナル時ハ舊法ニ特別法ハ特別ナラサル普通法ヲシテ確實ナラシムトノ意ヲ用井ル可シ「アナロジ」ト敷衍トハ其意同シト雖モ亦之ヲ區別スレハ敷衍ハ目的ニシテ「アナロジ」ハ其方法ナレハナリ前項ニ記スル規則ト並ヒ行ハル、者アリ即チ其立法ノ原理廢セサレハ其法亦廢セサル是ナ



法學指針 第一冊  
リ然ルヲ人或ハ法ヲ立ル所ノ景狀廢スレハ法  
亦其執行ノ力ヲ失フトスルハ誤レリ何トナレ  
ハ立法者ノ威權ヲ以テ定ムル所ノ法律ノ力ハ  
其法ヲ立ツル所ノ景狀廢スト雖モ公告又ハ黙  
許ニ因テ廢スルニ非レハ必ス其効アル者トス  
レハナリ所謂法律ノ原理廢セサレハ其法亦廢  
セストノ理則チ亦法律ヲ限程スルノ原則ナリ  
法律ヲ限程スルトハ普通ノ常法ハ以テ特許特  
禁ノ一ニ施ス可カラサルヲ云フ蓋シ特例ノ一  
或ハ普通法ノ包含スル所ト雖モ之ヲ別異ニセ

サル可ラサレハナリ  
アルギュマンダシヨ<sup>ン</sup>ニ<sup>推</sup>理ニ<sup>義</sup>因テ法律ノ原旨或  
ハ其文意ヲ實事ニ適施セントスル所ノ商量ト  
ヘルミヌチク<sup>ク</sup>文章ヲ<sup>明</sup>說ト混ス可カラサル<sup>アル</sup>ギ  
マンダシヨ<sup>ン</sup>トヘルミヌチク<sup>ク</sup>トハ猶ホ目的ト  
方法トノ如シ而シテ又アルギュマンダシヨ<sup>ン</sup>ノ  
方法ノ重要ナル者三アリ其一ハ<sup>ア</sup>ナロジー<sup>シ</sup>其  
二ハ<sup>ア</sup>コントラリヨ<sup>セ</sup>ンス<sup>ス</sup>反<sup>對</sup>意<sup>三</sup>ハ<sup>ア</sup>フヤル  
チ<sup>ー</sup>ヨリ<sup>キ</sup>一<sup>層</sup>強<sup>ト</sup>ス<sup>コ</sup>ントラリヨ<sup>セ</sup>ンス<sup>ト</sup>ハ  
例ヘハ一事ヲ舉テ之ヲ是トスルトキハ其他ノ



非ナルヲ定ム可ク又一事ヲ舉テ之ヲ許ストキ  
 ハ其他ノ禁タル知ル可キカ如シ故ニ此方法ハ  
 其反射ノ力ヲ以テ普通法或ハ特例法ヲシテ更  
 ニ明確ナラシムルノトキニアラサレハ之ヲ用  
 井ル可カラス苟モ之ヲ濫施スレハ其害少シト  
 セス慎マサル可ケンヤ「ソ」アルチ「ヨ」リトハ固  
 ヲリ法律ノ正條ニ明示ナキ者ト雖モ其法ノ原  
 則ヲ推究シ立法者ノ意ヲ一層明確ニシ得ルト  
 キハ其理ヲ以テ適施スルヲ云フ故ニ「ソ」アルチ  
 「ヨ」リハ小ヨリ大ニ及ホシ又大ヨリ小ニ及ホ

ス可キ者ナリ凡法意ヲ釋スルト法ノ施用ヲ論  
 スルトヲ問ハス法意ノ及フ所ヲ強テ之ヲ限程  
 ス可カラス又事ノ差別ヲ為サ、ル所ニ於テ之  
 ヲ差別ス可カラス舊法ニ曰ク法。理。ノ。純。一。ナル  
 者。ハ。人。意。ヲ。以。テ。之。ヲ。分。ツ。可。カ。ラ。ス。

第七條

法律ニ據リ却テ其譎詐ヲ行フ者アリ是ヲ以テ  
 古来或ハ法律學ヲ名ケテ譎術ノ學ト云フニ至  
 レリ羅馬人曰ク人ノ譎詐ト法律學者トヲ避ク  
 可シ獨逸人曰ク法律學者ハ神ヲ敬セサル者ナ



リト法學者ノ世ニ尊重セラレシ者獨リセント  
イーフアルノミ其祭日ニ當リ人之ヲ頌シテ曰  
ク世人ノ汝ヲ敬愛スル所以ハ正實ノ代言人タ  
リシヲ以テナリト

法律學者或ハ法律ニ因テ詐譎ヲ行フアルカ為  
ニ遂ニ法律學ヲ併セテ之ヲ非トスルハ是猶ホ  
不正ノ僧徒アルカ為ニ教法ヲ併セテ之ヲ譏ル  
カ如シ思ハサルノ甚キナリ羅馬ノシセロン曰  
ク法律學果シテ人ヲシテ訴訟ニ巧ミナラシム  
ハ法律學ナキニ如カス抑法律學ハ人ヲ道義ニ

導クノ具ナリト古昔未タ法律ト道義トヲ別タ  
スシテ法律ハ道義ノ方法タリ故ニ己カ生計ヲ  
立ルニ其道ヲ以テシ人ニ損害ヲ加ヘス人ノ權  
利ヲ枉ケサルヲ以テ戒訓トセリ今ニ在テハ此  
二者ヲ區別ス故ニ法律學者ハ道義上ニ於テ僧  
徒ノ職アルカ如クナラス又ウピヤンニ踵テ左  
ノ語ノ如キヲ言フ能ハス其語ニ曰ク我ハ法律  
ヲ行フ者ナリ而シテ惡ヲ惡トシ又善ヲ善トシ  
善ヲ行ヒ正ヲ履ムノ教ヲ明ニス故ニ獨リ刑罰  
ヲ權スルノミナラス又其褒賞ヲ權シ且ツ戒訓



ヲ以テ人ヲシテ善ヲ欲スルノ心ヲ生セシムト  
 然レトモ今日ト雖モ善ク學者ノ意志ヲ高尚ニ  
 シ人ノ尊キ所以ヲ信シ義理ヲ明ニシ人ノ權利  
 ヲ敬重スヘキヲ知ルハ法律學ノ力ニアラサル  
 ハトシ故ニ法律學ハ諸學中ノ第一等ニ位シ禮  
 數上ノ順次ニ於テハ神學ノ次醫學理學文學ノ  
 上ニ居ルグロシス其友人ニ贈ルノ書アリ曰ク  
 余屢人ノ為ニ之ヲ言フ子亦之ヲ信セヨ法律學  
 ニ非ルヨリハ貴人ヲシテ其聲價ヲ生セシムル  
 ニ足ラスト亦以テ法律學ハ人ノ精神ヲ養フノ

最モナル者タルヲ見ル可キナリ夫レ法律學ハ  
 人ヲシテ富マシムルヲ保セスト雖モ貴顯ノ職  
 ニ至ルヲ得セシム可シ又一定ノ家産ヲ立テシ  
 ム可シ故ニ此ニ從事スル者ハ必ス其幸福ニ達  
 スルニ至ラン古諺ニ言ヘルアリ曰クガリエノ  
 ス醫學ノ始祖テリ因テ直ニハ人ヲシテ富マシ  
 其名ヲ以テ醫學ノ稱トス  
 ノエス子ニヤノス法律學ノ始祖ナリ因テ其  
 名ヲ以テ法律學ノ稱トス  
 人ニ名譽ヲ與フトホルタリス曰ク今日ノ景况  
 ヲ以テ之ヲ見レハ法律學ハ人ノ才能ヲ顯ハシ  
 人ノ意思ヲ達シ及ヒ人ノ奮發力ヲ生セシムル



ノ學ニシテ實ニ人ノ大幸ト謂フ可シ而シテ法律學者ハ既ニ世ニ於テ一階級ヲ為ス古ハ法律學ニ明カナラス之ヲ學フ者アリ學ハサル者アリ今ヤ成ニ開ケ醫學理學等ノ學ト公然ニ階級ヲナシル要<sup>ル</sup>云フ學<sup>タ</sup>此階級ハ人ノ自立スル能ハス又自護スル能ハサル者ノ幫助人トナリ保護人トナリ且裁判官ノ為ニハ學校ノ如キモノトナルナリ

大學校ニ入り必ス學則ヲ蹈ミドクトル博士リ等リ

カシエ<sup>上</sup>ノ階級ニ上ラサレハ法律ノ職ニ就ク可カラサル者アリ又必スシモ法律學校ニ

入ラスシテ法律ノ職ヲ得可キ者アリ治安裁判官商法裁判官レ等是ナリ故ニ法律ヲ學フ者ハ學校ノ如何ナルヲ要セス要スル所ハ其勉強ノミ畢生ノ力ヲ盡シ首ヲ堆書ノ中ニ埋ムルニ非レハ天稟ノ美ヲ備ルト雖モ以テ其成ス所アル能ハサルヲ知ル可シ古語ニ曰ク鐵頭銘鐵頭ノ堅剛不屈腰腰ノ強亦勉強ヲ諭ナル可キニナ喻ハ坐ニ銘ニ腰ニトハ其ニ肢ニ骨ニ軟フ亦ニ勉ニ強ニヲニ諭ス

スノ辭ナリカミヌス及ヒヅパン共ニ言ルアリ法律ヲ學フ者ハ一日ノ内十二三時間ノ業ヲ階ル可カラスフアールガ詩ニ曰ク學問ノ要ハ勉強



ニアリ勉強シテ而シテ猶ホ教ヲ人ニ請フ可シ  
勉強シ且教ヲ請テ猶ホ未タ得サル所アレハ更  
ニ一層ノ憤勵ヲ發シ後來ノ光陰全ク之ヲ勉強  
ニ盡ス

法律ノ區分

第八條

人ノ性タル必ス人ト相依リ相資ケ社ヲ為シテ  
以テ其生ヲ遂ク九肢體ノ被服ニ於ル心ノ嗜好  
ニ於ル人ニ資シテ得ルニアラサルナキ固ヨリ  
言ヲ待タス是ヲ以テ人亦誰カ己カ人ニ資スル

ト人ノ己ニ依ルト相待テ社ヲナスノ理ヲ信セ  
サル者アラシヤ故ニルソーガ暴論巧辭ヲ以  
テスト雖モ此理ヲ破ル能ハサルナリ且ツ人々  
其保護ヲ得ル亦相依リ相資ケテ社ヲ為スニア  
ルノミ而シテ社ノ永久ヲ保ツハ人々己カ自由  
ヲ得ント欲シテ先ツ人ノ自由ヲ尊敬スルニ在  
リ若シ然ラスシテ人々己カ自由ノ為ニ人ノ自  
由ヲ顧ミサレハ弱ノ肉ハ強ノ食相奪ヒ相殺シ  
テ而シテ後ニ止マン故ニ道理ハ其必ス為サ、  
ル可カラサル所ヲ人ニ示ス其示ス所之ヲ自然



法即チ不易法ト云フ人盡ク自ラ道理ノ示ス所ニ從フニ非ス必ス威力ヲ以テ之ニ從ハシノサル可カラス是ニ於テ國興ル國トハ多少ノ人民或ハ自然ニ因リ或ハ約束ニ因リテ一境域ニ群處シ一人或ハ數人ヲ立テ主長トシ之ニ其保護ノ任ヲ托シタル者ナリ而シテ其政治ノ體ノ如何ナルヲ問ハス國ノ目的ヲ達シ其保護ヲ得ルカ為、人民黙許シテ國ノ萬機ヲ裁制シ萬事ヲ人ニ必行セシムルノ權ヲ主長ニ委子主長ノ其職ヲ盡スハ主トシテ法律ヲ以テ處分スルニ在リ

其法律之ヲ人定法即チ隨意法ト云フ

第九條

法ヲ自然ト人定トノニニ分ツハ唯學問ト議論トヲ以テ發明スルニ非サルハ前條説ク所ニ因テ自ラ明カナリ而シテ又純ラ道理ニ出テ萬物ノ本質ヨリ生スルヲ明ニス可シ自然法ニ於テ定ムル所ノ義務ト固ヨリ同一ニシテ相觸ル、ナシ然レトモ人定法ノ行ハル、主長ノ權ニアリ自然法ハ主長ノ權ヲ以テ輕重スルコトヲ得ル者ニアラス是ニノ者ノ相異ナル所以ナリ方



今文明ノ各國ニ於テ人定法ハ其主長即チ自然  
 法ヲ適施スルノミトス是理ノ當サニ然ル可キ  
 所ナリ如何トテレハ人定法即チ隨意法ト云フ  
 ト雖モ主長放マ、ニ其意ノ欲スル所ニ從ヒ之  
 ヲ輕重スルコトヲ得ルモノニ非ス主長唯其威  
 權ニ因テ之ヲ施スノミボルトリス曰ク法律ハ  
 威權ノ作用ニ非ス道理ノ作用ナリ故ニ立法者  
 ノ權ヲ行フヤ猶ホ僧官ノ教ヲ説クカ如シ僧徒  
ヲ説クハ捏造スルヲ以テヤス蓋シ法律ハ必ス自然  
必ス天理ヲ演スルヲ云フ法ヲ以テ基礎トス此基礎ニ據ラサル者ハ唯一

時ノ法タルニ過キザルノミ是ニ由テ之ヲ觀レ  
 ハ人定法ハ即チ自然法ヲ酌量シテ實事ニ適施  
 スル者ニ非スヤ然レトモ或ハ一般公益ノ為己  
 ムヲ得ス基礎ニ因ラスシテ法ヲ立ツルアリ此  
 時ニ當テハ則チ自然法ノ咎ヲサル所ナリ故ニ  
 人民ハ自然法ニ據ラサル者ト雖モ之ニ從フヲ  
 順トス縱令之カ為、非理ニ涉ルト雖モ正式ヲ以  
 テ公然之ヲ廢スルニ非サレハ必ス從ハサル可  
 カラス



夫...  
 一...  
 二...  
 三...  
 四...  
 五...  
 六...  
 七...  
 八...  
 九...  
 十...



